

日本学術会議 公開シンポジウム

多元的共生を志向する

農業環境システム設計科学

「農」のあるべき姿の創造

■日時：2013年9月24日(火)
13:30~17:30
(当日受付・入場無料)

■開催趣旨

偏った人口動態（高齢化、過疎化）と食料需給のグローバル化の圧力によって、国土の大半を占める農山村地域で深刻な高齢化と過疎化が進行し、農山村地域の多面的機能の崩壊による国土・国勢の急激な荒廃が危惧されている。

これらの打開には、「経済効率と持続可能性」、「グローバルとローカル」、「都市と農山村」、「工業と農業」、「人間と自然」等の多様な二項群に対する全体最適化による「多元的共生」を基盤とした地域振興が必須である。したがって、多元的共生を可能にする地域農業と地域環境の「あるべき姿」の創造に寄与する農業環境システム設計科学を推進することが、国土・国勢の未来可能性を保障するために不可欠である。

本シンポジウムは、農業環境システム設計科学の哲学的基盤、進むべき方向性および具現化すべき成果を模索するために開催する。

■次第

13:30	開会挨拶 大政 謙次（日本学術会議第二部会員、農学委員会農業生産環境工学分科会委員長、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
13:35	多元的共生を志向する農業環境システム設計科学の意義 北野雅治（日本学術会議第二部連携会員、九州大学大学院農学研究院教授）
13:45	「農」と共生の思想 尾関周二（東京農工大学大学院名誉教授）
14:30	気象・気候の克服と利用の目指すべき方向性—事例として— 廣田知良（北海道農業研究センター上席研究員）
15:00~15:30 休憩	
15:30	バイオマス利用の目指すべき方向性 凌 祥之（九州大学大学院農学研究院教授）
16:00	農業施設における工学技術の現状と持続性への展望 佐瀬勤紀（日本大学生物資源科学部教授）
16:30	高次機能性植物生産の目指すべき方向性 後藤英司（日本学術会議第二部連携会員、千葉大学大学院園芸学研究科教授）
17:00	総合討論 (司会) 位田晴久（日本学術会議第二部連携会員、宮崎大学農学部教授）
17:25	閉会挨拶 野口 伸（日本学術会議第二部会員、食料科学委員会委員長、北海道大学大学院農学研究院教授）

■場所：日本学術会議 6階会議室

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34

主催：日本学術会議 農学委員会 農業生産環境工学分科会

後援：日本農業気象学会、日本生物環境工学会、農業施設学会、生態工学会、農村工学研究所、九州大学大学院農学研究院

連絡先：北野雅治 (Masaharu KITANO)

九州大学大学院農学研究院 環境農学部門

生産環境科学講座 気象環境学研究室

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1

Tel & Fax : 092-642-2923 E-mail: kitano@bpes.kyushu-u.ac.jp

